

NINE JP の活動と国際ワーキンググループの視点

- 国際展開活動・今後の展望
- 大学横断型ライフサイエンス案件紹介プラットフォーム「Made in Campus powered by K.U」の概要

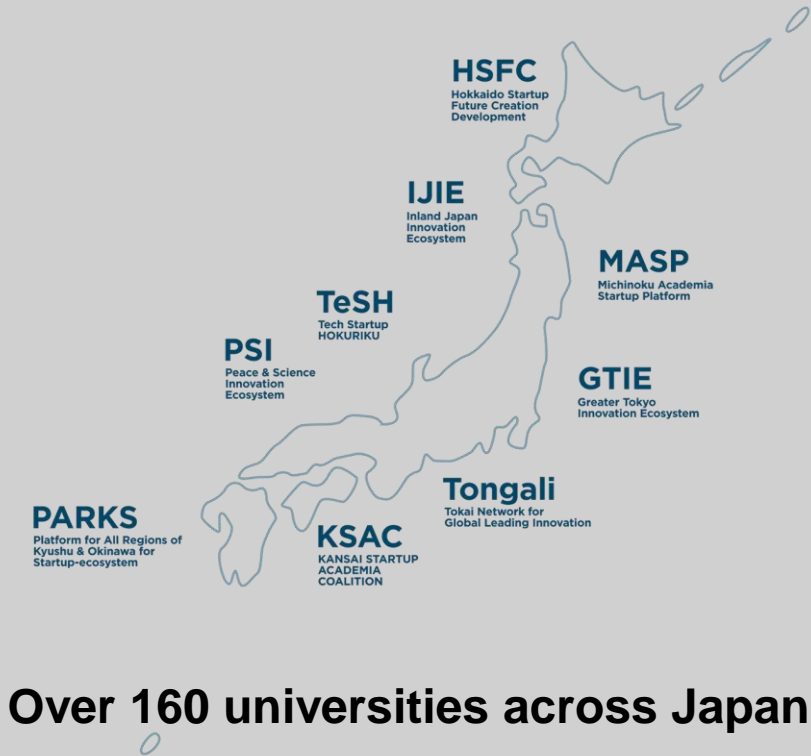
2026年1月19日

京都大学 副理事
(社会連携・イノベーション推進担当)
成長戦略本部長
室田 浩司

NINEJP

PLATFORM FOR INNOVATION ECOSYSTEMS AND ENTREPRENEURSHIP

Co-creating Futures
with Connecting
and Visualizing



Over 160 universities across Japan.

NINE JP

National Innovation Network for Entrepreneur
Japan

NINE JP設立の背景

1. 大学発スタートアップ・エコシステム形成を目的に、全国の主要地域で大学・自治体横断型の支援プラットフォーム(PF)が形成(2021年度～)。
 - 例：関西圏：KSAC、首都圏:GETI、東海地域：Tongari 等、現在9拠点。
1. 各支援プラットフォームの機能が拡大（例）
 - ・ GAPファンドの運営
 - ・ アントレプレナー教育カリキュラム・プレーニングプログラムの共同開発・運営
 - ・ ピッチイベント/プレススタートアッププロジェクトのDemo day
 - ・ 海外展開支援
2. 全国の支援PFに共通する課題が顕在化。対応策として、先行しているPFの各機能を拡張し、他のPFにも利用を拡大・開放する枠組みを整備 ⇨ NINE JPの誕生

多くの大学発SU創出プラットフォームが抱える課題

1. グローバル展開を支援するためのリソースとノウハウ

- ・ 海外展開を支援できるリソースを有する大学は限定的

2. アントレプレナー・経営人材候補、支援人材の不足

- ・ 特に首都圏以外で大きな課題

3. 事業化シーズのVisibility

- ・ 専門的過ぎるシーズの説明（投資家・事業会社フレンドリーでないコンテンツ）
- ・ シーズ情報探索の非効率性

Kansai Startup Academia Coalition (KSAC)

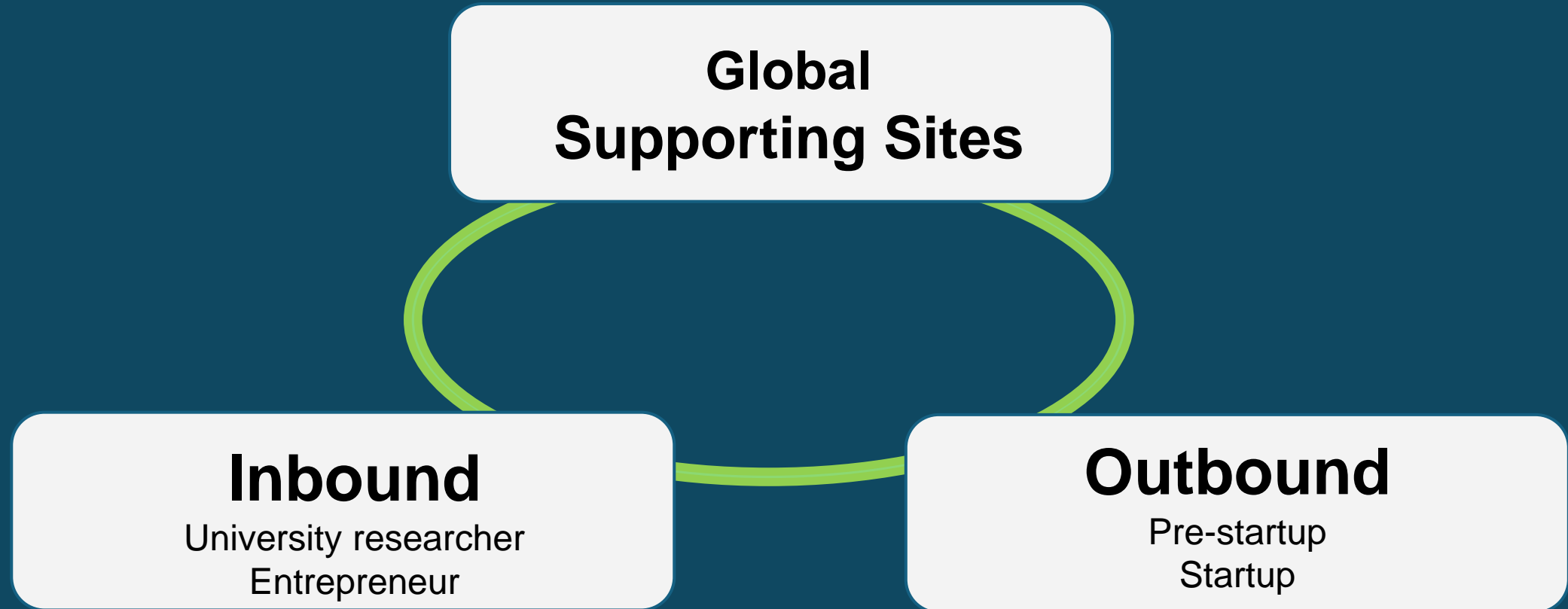
University Platform in the West Region of Japan



「ライフサイエンス関連シーズ開発」と「国際展開支援」の面で、他拠点に先行

NINE JP 国際ワーキンググループの機能

- 他のPFに先行するKSACの「国際支援展開」機能を拡大



グローバルスタートアップ創出に向けた課題

1. 世界における日本の認知度の低下

世界の主要イノベーション・エコシステムコミュニティ内での認知度は、特に低い。
特に、世界的なイノベーション・Startup系コンファレンスや展示会での発信力強化は
国として課題なのでは？

2. 語学力を含めたコミュニケーション能力

語学のみならず、コミュニケーションを円滑にする土台としての異文化理解も課題？
産業界とのインタラクティブなコミュニケーションスキルの向上も必要か？

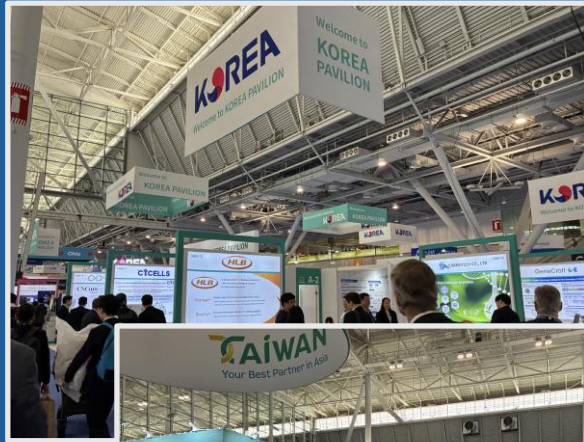
1. 日本のサイエンスとテクノロジーの発信力

テクノロジー発信力とインタラクティブなコミュニケーション機能が、国として希薄。

以上の課題に対して京大が貢献できることは何か？？



世界の主要コンファレンス・展示会・ピッチコンペなどでの日本のプレゼンス



京大として全国の大学に貢献できること

1. グローバル拠点のリソースの利用を他大学にも提供
2. 国際展示会への出展運営ノウハウの提供
3. 京大で開発した研究成果を関するアカデミア・インダストリー間の「コミュニケーションツール」を他大学に開放
(利用者とのインタラクティブなコミュニケーションが可能)

国際WGにおけるグローバル拠点設置の考え方

- ・ スタート時：
 - ・ 北米、ASEANを含むグローバルサウスに重点を置いたロケーション
- ・ 現時点：
 - ・ 北米・グローバルサウス・欧州のバランスを重視
 - ・ 考慮すべき点
 - ・ トランプ政権の政策による北米への入国・活動への影響
 - ・ イノベーションの世界的ダイバージェンス
 - ・ ウクライナ情勢の動向
 - ・ 世界における今後の経済成長エリア、社会課題
 - ・ 経済安全保障
 - ・ コストパフォーマンス（費用対効果測定）
 - ・ JST支援終了後の自立化

Global networking

supported by Osaka University, Hiroshima University, and Kyoto University.



グローバルネットワーク形成・情報収集について(1)

- ・ 北米に対する視点

- ・ 総論

- ・ シリコンバレーにVCやテック系SUは多いが、金融市場・コンシューマー市場でないこと、主要産業の本社機能や事業決定機能はニューヨークに代表される東海岸など他地域にあることに留意。
 - ・ また、テック系エンジニアの人材は豊富だが極めて高給。HR、アドミニ系人材は、テック系人材ほど豊富ではない一方、他地域と比較してコストパフォーマンスは悪い？
 - ・ シリコンバレーでのイベント集客は、苦勞の割に成果も薄い？

- ・ ライフサイエンスについて

- ・ シリコンバレーでもライフサイエンスセクターのイノベーションは盛んだが、北米におけるライフサイエンス系イノベーション拠点の中心としてボストンの認知度が高い。
 - ・ 一方、近年、ニューヨークでのライフサイエンス振興の勢いが加速していること、ボストン～特に、ケンダルスクエアでの家賃・諸物価の高騰から、ボストン郊外やニューヨークへ活動量がシフトしつつある傾向も見られる。

グローバルネットワーク形成・情報収集について(2)

- ・ グローバルサウスに関する視点
 - ・ 意義：以下2点の観点で重要な地域
 - ・ 地球規模の社会的課題を具体的に認識する地域
 - ・ シンガポールの位置付け
- ・ 業種領域の視点
 - ・ ライフサイエンスの視点
 - ・ 感染症、再生医療、公衆衛生（水、空気等）
 - ・ その他の展開は保留か。
 - ・ その他の領域（ネットワーク形成・支援が有益な領域）
 - ・ アグリ/フードテック
 - ・ 量子コンピューター/技術（パンパシフィック内での連携）
 - ・ 通信
 - ・ エネルギー（含：バイオマス）

ライフサイエンス分野での活動(1)

NINE JP 国際WG (KSAC & 京都大学)



- Bio International 2025 (LINK-J/三井不動産様にはお世話になりました！)
- Boston-Japan Startup Connect by Bayer Co.Lab @Boston
- Singapore InnoVision from Top Universities of Japan 2025
- Global Startup EXPO Osaka 2025

ライフサイエンス分野での活動(2)

NINE JP (KSAC & 京都大学)



Bio Japan 2025

こちらLINK-J/三井不動産様にも大変
お世話になりました。



Made in Campus powered by 京都大学

- ・ ライフサイエンスを中心としたスタートアップ情報及びアカデミアの研究シーズの紹介スライド/動画等を収集したオンラインコミュニケーションプラットフォーム。
- ・ 京都大学成長戦略本部イノベーション領域（ライフサイエンスチーム）が開発/運用、他大学にも利用開放



アカデミア発研究シーズ活用の課題（特にライフサイエンス系）



シーズ探索の非効率性

- ✓ 課題解決に繋がるシーズを効率的に見つけるのが困難
- ✓ 情報が散在しており、探索に多大な時間と労力を要する



情報の壁

- ✓ アカデミアの研究者が発信する研究成果が専門的過ぎる
- ✓ 産業界のニーズに合わせた情報整理が不足し、活用が難しい



連携機会の不足

- ✓ 研究者と企業間の接点が少なく、具体的な連携機会が限定的
- ✓ 有望なマッチングを逃している可能性も



複数機関の横断閲覧の難しさ

- ✓ 複数の大学・研究機関のシーズをまとめて探索する手段が少ない
- ✓ 個別のウェブサイトでの確認が必要になり非効率

「Made in Campus」

課題をチャンスに変える、アカデミア・インダストリー間のコミュニケーションツール

Turning Challenges into Solutions with Made in Campus



- ・ 情報活用者（事業会社・投資会社）と情報登録者（研究者/スタートアップ）双方にとって有益なプラットフォーム
- ・ これまでの公的主導のDB構築における課題を克服



情報の一元化

研究概要、代表論文、特許情報、研究室HPなどの情報を1ページに集約、無料でどなたでも登録・閲覧が可能。



連携をスムーズに

求めているパートナー像やニーズを明示し、連携の可能性をスムーズに検討可能。連携を希望する場合は担当者のサポートに加え、研究者に直接コンタクトも可能。



効率的なシーズ発見

国内複数のアカデミア機関の研究シーズを収集し、効率的にシーズ情報を入手可能。大学・機関の情報やピッチイベント動画などの視聴も可能。

Made in Campus の情報・機能

Made in Campus: Proven Impact, Driving the Future

01

ライフサイエンス分野を中心とした大学研究紹介

2024年より、BIO International Conventionを始めとする国内外の展示会や製薬企業との共催ピッチイベントでの紹介を実現

02

スタートアップの紹介

国内のスタートアップの紹介動画や資料を閲覧することができ、イノベーションエコシステムの構築を支援

03

国内の大学・研究機関の活動紹介

KSACやNINEJPの枠組みにも拡がり、参加機関(13大学)の紹介情報にもアクセス可能
各機関や大学とも連携して研究提案収集や、外部展開を推進



Made in Campus トップページ

<https://made-in-campus.gakkai.online/dashboard>



3つのカテゴリーで構成されたプラットフォーム（横軸）

1

紹介

Made in Campus、NINEJP※、
イベント情報、参加機関の紹介等を掲載

2

スタートアップ

各領域別のスタートアップ紹介を閲覧可能
革新的なビジネスモデルと社会的インパクトを確認

3

研究者からのシーズ

各領域別の研究シーズ紹介を閲覧可能
最先端の研究成果を効率的に探索できる



「スタートアップ」セクション



研究成果の事業化を目指すスタートアップやプレ・スタートアップ企業（含：GAPファンド）が、その革新的な「シーズ」と「ビジョン」を効果的に発信できる機会を提供します。



動画で効果的に発信

紹介資料や動画コンテンツを通じて、研究内容だけでなく、具体的なビジネスモデルと社会に与えるインパクトを説明します。



多様なステークホルダーへリーチ

地理的・時間的な制約を超えて、国内外の投資家、大手企業、アカデミアの研究者といった多様なステークホルダーに対し、スタートアップの魅力を深く、迅速に共有することを実現します。

スタート
アップ

創薬技術

再生医療

体外診断薬・バイオ
マーカー・検査

医療機器・デジタル
ヘルス

その他

「研究者からのシーズ」セクション

研究者が登録したシーズを各領域ごとに分類して掲載しています。

充実した研究領域

「創薬(癌・免疫、神経、循環器等、呼吸器等)」、「オルガノイド」、「再生医療」、「医療機器・デジタルヘルス」、「ライフサイエンス関連技術」で構成されています。

継続的な拡充

NINEJP参画大学の研究者にも範囲を広げており、今後も適宜領域を増やす予定です。
2025年11月時点で研究シーズだけでも70件以上が掲載されています。

効率的な探索

領域別の分類により、関心のある研究シーズを効率的に発見し、産学連携の可能性を迅速に検討できます。

研究者からの
シーズ

創薬（１）がん、免疫

創薬（２）神経

創薬（３）循環器、代謝、内分泌

創薬（４）呼吸器、消化器、腎・泌尿器

創薬（５）感覚器官、感染症、その他

オルガノイド

研究シーズの詳細情報

タイムテーブル / 演題詳細

NR4A as a therapeutic target for autoimmune diseases / 核内受容体介在性免疫調節剤の開発

がん、免疫 | ① - ② 研究者からのシーズ

要旨を閲覧できます。

英語版と日本語版を閲覧できます。

要旨を見る

フルスクリーンで見る

1/2

この発表を聞いた方におすすめ

Non-invasive PancreaticBeta-cell Imaging Technique / 非侵襲的な膵β細胞イメージング（測定）技術
MurakamiTakaaki (Kyoto University, Graduate School of Medicine)

Anti-obesity Peptides Derived from Photosynthetic Organisms / 光合成生物の主要タンパク質に由来する抗肥満ペプチド
OhinataKousaku (Kyoto University, Graduate School of Agriculture)

RPA lyophilized reagent for long-term storage at RT / 室温長期保存が可能なDNA増幅用凍結乾燥試薬
YasukawaKiyoshi (Kyoto University, Graduate School of Agriculture)

KSAC

同じ分野で登録されたおすすめの研究シーズを紹介しています

バイリンガル対応

英語版と日本語版の両方で研究内容を閲覧でき、国際的な産学連携を促進します。グローバルな研究交流を実現します。

研究要旨の閲覧

各研究シーズの要旨を簡潔に閲覧できます。研究の核心を素早く理解し、興味のある分野を効率的に探索できます。

おすすめシーズ

同じ分野や関連領域の研究シーズが表示されます。新たな研究連携の可能性を発見することができます。

フルスクリーン表示

研究シーズの詳細情報を大画面で快適に閲覧できます。

充実した研究シーズのラインナップ

2025年11月現在(登録大学数：20大学)

- ・ 大学研究シーズ：72件
 - ・ 大学発スタートアップによる研究開発：65件
 - ・ その他、関連機関/活動などの紹介：23件
- 合計：**160件**

シーズ登録件数は増加中

- ・ 主要拠点によるGAP案件採択プロジェクト
例：KSACの場合：30件以上の動画(-2024年度),
約**150件**(2025-27年)
- ・ 京大・KSAC・NINE JPが関連するイベント登壇で発表する研究シーズ等



創薬研究

癌・免疫、神経、循環器、呼吸器など、幅広い疾患領域をカバーする革新的な創薬シーズを掲載しています。



オルガノイド技術

次世代の疾患モデルとして注目されるオルガノイド研究の最新成果を提供します。



再生医療

細胞治療や組織工学など、再生医療分野における画期的な研究シーズを紹介します。



医療機器・デジタルヘルス

革新的な医療機器やデジタルヘルス技術により、医療の未来を切り拓く研究を展開しています。



ライフサイエンス関連技術

基礎研究から応用技術まで、ライフサイエンス分野の多様な技術シーズを掲載しています。

充実した情報でマッチングを加速

核内受容体NR4Aを標的とした自己免疫疾患の治療開発

研究・技術概要

- 核内受容体NR4AがB細胞、T細胞免疫寛容を制御していることを明らかにした
- NR4Aの作用を増強することで自己反応性リンパ球を制御できる可能性がある
- NR4Aが自己免疫疾患の創薬標的となりうるかをさらに検討し、化合物治療薬の開発を目指したい

求めているパートナー

- 自己免疫疾患の創薬標的を探索している各種企業・スタートアップ

背景:
自己免疫疾患の治療の中心は、依然として副腎皮質ステロイドや免疫抑制薬による非特異的な免疫抑制療法である。治療の副作用として日和見感染症を含む種々の感染症が課題である。

研究・技術の強み:
NR4AがB細胞、T細胞免疫寛容を制御していることを見出した。NR4Aは自己反応性リンパ球で高発現していることから、自己免疫疾患の新規治療標的となりうる。




連携に期待する具体的な取り組み内容:
NR4Aの病態メカニズムへの関与をin vivoで病態モデル等で検討することにより、NR4Aが自己免疫疾患の創薬標的となりうるかを検討し、さらに化合物スクリーニングにより開発品候補を得る。

代表論文: Nat Immunol. 2020;21(10):1267-79.
JCI Insight. 2021;6(17):e151005.

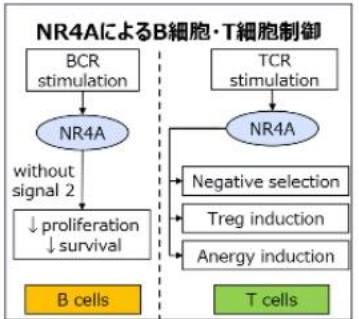
技術のステージ: 探索・前臨床

所属: 京都大学医学部附属病院
免疫・膠原病内科
氏名: 日和 良介
職位: 助教

<http://www.rheum.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>
ryohiwa@kuhp.kyoto-u.ac.jp



NR4AによるB細胞・T細胞制御



- 研究概要と技術的な強み
- 代表的な論文と特許情報
- 求めているパートナー
- 研究室の概要と連絡先

これらの情報を一箇所に集約することで、スムーズな産学連携とマッチングの推進をサポートします。



簡単なコミュニケーション機能

研究者への直接連絡

興味を持った研究シーズについて、研究者または産学連携担当者などの窓口に直接メールを送ることができます。迅速なコミュニケーションにより、連携の機会を逃しません。

事務局へのサポート依頼

研究シーズに関する質問や、マッチングに関するコメントを事務局に送付できます。専門スタッフが丁寧にサポートし、最適な連携パートナーとの橋渡しを行います。

※別途、専用のお問い合わせ窓口も構築中

The screenshot shows a web interface for submitting comments. At the top, the title 'コメント' (Comments) is displayed. Below it, a subtitle reads: '発表に関して質問事項等ございましたら、コメントをご投稿ください。' (If you have any questions regarding the presentation, please submit a comment). The main form area includes a user profile icon and a large text input field with the placeholder 'コメントを入力してください' (Please enter a comment). Below the text field is a dashed line and the label 'ファイルを添付' (Attach file). To the right of the form, a red-bordered callout box contains a button labeled '✉ 発表者にメールする' (Email presenter) and a text box stating: '研究者（又は連絡窓口）に対しメールを送ることができます。' (You can send email to the researcher (or contact person)). Below the form, there are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '送信' (Send). A dark blue-bordered callout box at the bottom center states: '事務局へのコメントや質問事項の送付ができます。' (You can send comments and questions to the secretariat). At the very bottom, a message says: 'まだこの発表へのコメントが投稿されていません。コメントは質疑応答時間を待たずにいつでも投稿することができます。' (No comments have been submitted for this presentation yet. You can submit comments at any time without waiting for the Q&A time).

Made in Campus の登録方法



ステップ1:新規登録

下記URLもしくはQRコードへアクセスし、新規登録からメールアドレスを登録してください。

<https://made-in-campus.gakkai.online/>



Registration online



Filling out
a personal profile



User authorization



ステップ2:本登録

本登録ページのURLが記載されたメールが届きましたら、本登録を行ってください。



ステップ3:ログイン確認

再度 <https://made-in-campus.gakkai.online/> へアクセスし、ログインを確認してください。



今後の展望

AI for



**Made in
Campus**

Co-Creation Platform of
Japanese Academia Startup Ecosystem